

大型医療機器の設置，可動範囲に関して

＝ 歯科用ユニット，マイクロスコープ，X線装置等，機器全般においてご留意頂きたい事項 ＝

1. 配置設計

1) 機器の可動範囲と壁面とのクリアランス

例) 歯科用ユニットの設置が壁際



フットレストの先に余裕はありますか？

患者様の足が壁面に引っかかる可能性にご留意ください

2) 患者様と歯科医療従事者の動線

患者様を装置へ誘導したり装置に位置付けたりする時，装置や備品等との干渉

例) 2台の歯科用ユニット間にマイクロスコープを1台天吊りして，双方の歯科用ユニットで使いたい



患者様や歯科医療従事者が頭を打ちませんか？

顕微鏡部は退避できますが，**天吊り軸廻り**は固定です。

※ 診療室の設計に安全配慮を盛り込みます。

2. 診療

- ・装置や備品の位置に留意して患者様を導入します。
- ・X線装置は大まかな位置調整してから患者様を導入します。
電源投入 → 患者様導入ポジションへアームを回転 → 患者様に合わせた上下位置の調整
→ 患者様導入 の順です
- ・動かす方向に留意します。干渉障害物が無いことを確認してから動かし始めます。
- ・機器を動かしているときは機器の状態、患者様を注視します。



歯科用ユニットの可動部のはさみ注意はこちら

= <https://www.gcdental.co.jp/tekisei/anzen/pdf/2010-12-21.pdf>

- ※ 装置とヒトや備品との干渉は怪我や物損に繋がります。
- ※ 日頃から整理整頓に努めていても、患者様やお子様動かすこともあります。